

平成28年度行政評価 施策評価シート (平成27年度実績)

施策名 森林保全

施策コード 050102

1. 施策の担当	
主管課	生活産業部 農林水産課
関係課	

2. 総合計画における位置づけ			
総合計画	政策	第5章 活力をうみ、賑わいのあるまちづくり (活力・賑わい)	節 第1節 産業
	施策	森林保全	

基本方針

- ・ 森林が二酸化炭素の吸収源や保安林としての公益的な機能を十分に発揮できるよう、また、地域にとって、市民の共有財産としてかけがえのない美しい森林を次世代へ引き継ぐことができるように、森林保全の多様な施策を展開します。
- ・ 森林保全に取り組む団体や組織に対し、柔軟な活動支援制度の拡充に取り組みます。

現況と課題

- ・ 市民の意識として、山地の美化、森林学習や森林ボランティア活動に関心が薄くなっているため、森林保全の普及活動の充実が求められています。
- ・ 国内産の木材需要の減少から放置森林が増大しており、対策が求められています。
- ・ 林野火災や山地崩壊等の山地災害の防止は森林所有者や地域の理解を得て、復旧事業の促進を図っています。
- ・ 森林所有者の総合的な意見や要望の集約等が具体的に実施できていないため、森林に対する所有者の意識を把握する必要があります。

施策目標

対象 (誰を、何を、どこを)

市民

意図 (どのような状態にしたいのか)

森林を保全することで環境を維持し、公益的な機能を発揮することで還元する。

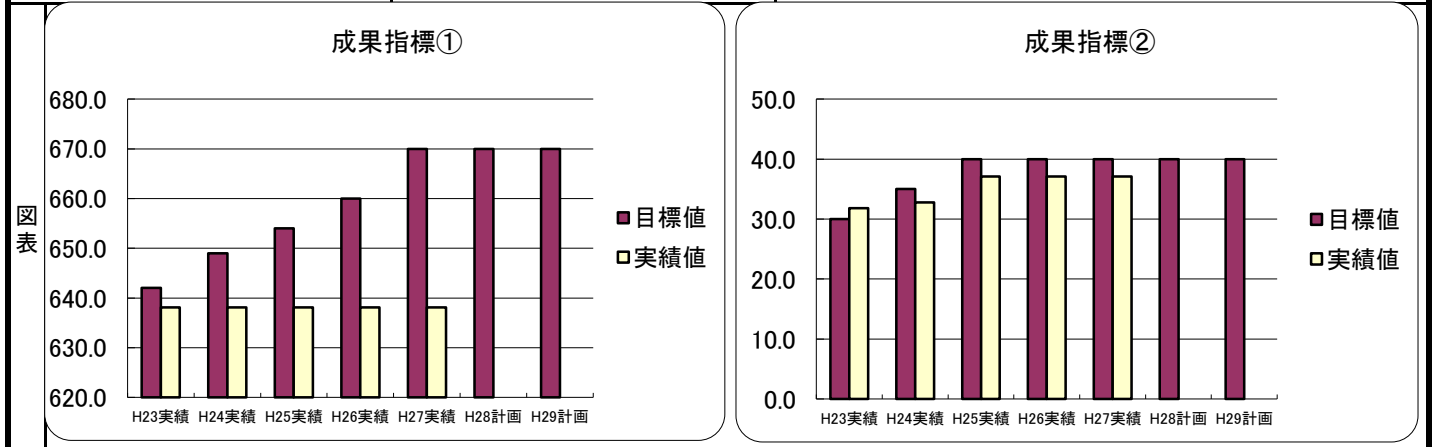
3. 市民ニーズ							
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
満足度 (偏差値)		52.7					
重要度 (偏差値)		47.3					

4. 施策にかかるコスト								
	単位	H26決算	H27決算					
コストの内訳	人件費	千円	11,053	12,013				
	事業費		7,127	3,574				
	フルコスト		18,180	15,587				
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0				
	府支出金		0	0				
	市債		0	0				
	その他		0	0				
	一般財源1 (=フルコスト-特定財源)		18,180	15,587				
	一般財源2 (=直接事業費-特定財源)		7,127	3,574				

5. 施策の成果指標							
① 成果指標 1		保安林指定面積					
項目	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画	H29計画
目標値	642.0	649.0	654.0	660.0	670.0	670.0	670.0
実績値	638.1	638.1	638.1	638.1	638.1		
達成度	99.39	98.32	97.57	96.68	95.24		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠			目標達成・未達成の理由・背景		
私達の環境を保全し、温室効果ガス削減吸収に役立つ森林は、健全な状態に保たなければなりません。保安林の指定を拡大していくことにより、事業導入が可能となり森林の保全に寄与するものである。よって、森林所有者の協力と理解を得ながら、これらの事業を推進していくものである。		大阪府の地域森林計画に掲げられている保安林指定面積に基づき、過去の実績から、年約10haの増加を目標とし、治山事業に関連する森林保全に取り組むものとする。			新規治山事業の実施がなく、新たな区域指定はできなかった。また、森林整備事業の制度改正等によって、保安林指定のメリットが小さくなったと受けとめられたこともあり、目標値は残せなかった。		

② 成果指標 2		間伐促進面積					
項目	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画	H29計画
目標値	30.0	35.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0
実績値	31.8	32.8	37.1	37.1	37.1		
達成度	106.0	93.71	92.75	92.75	92.75		

指標設定の根拠	目指そう値の設定根拠	目標達成・未達成の理由・背景
林業整備加速化・林業再生事業等の各間伐事業が事業化されたことを契機、泉佐野市特定間伐等促進計画を樹立することにより放置森林を解消し、間伐等により森林を保全することで環境を維持することとなるため指標として設定した。	保安林間伐事業を中心に進めているが、事業変更により間伐の伸びが減少したため、目標値の見直しをした。(平成30年度で40.0haと設定)	事業制度の変更による一般的であった、山に木材を残す「切捨て間伐」が対象から外れ、木材の「搬出」が義務付けられたことにより、制度を利用し間伐を促進していこうと考えていた山主の意欲が低下したことによるものと考えられる。



6. 施策の事後評価			
	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
	一次評価 (担当課による評価)	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) 3
施策に対する市民ニーズ		(3点中) 2	昨今における自然災害の被害防止という観点からも、森林の適正管理が重要となってきている。
施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)		(3点中) 2	大阪府でも森林環境税の導入(H28~)が決まり、近年ゲリラ豪雨による山地災害が全国的に多発している状況から、その財源を活用した防災の観点からの森林整備のニーズも高まっていくものと思われる。
合計点		(10点中) 7点	
総合評価		B	制度改正等もあり、保安林指定面積、間伐面積ともに目標値を達成することは出来なかったが、今後、森林環境税を活用した森林整備と、「森林経営計画」の策定、実施により目標値の達成を目指す。
二次評価 (政策推進課・行財政管理課による評価)		B	引き続き、目標値の達成に努めること。
三次評価 (理事者による評価)		B	引き続き、目標値の達成に努めること。

7. 施策を構成する事務事業							
	予算コード	事務事業名	H27年度決算額			H28年度予算	一次評価
			人件費	事業費	一般財源		
1	01035700	林業振興対策事業	6,047	401	401	376	B
2	01035800	林道維持管理事業	5,966	3,173	3,173	3,210	B
合計			12,013	3,574	3,574	3,586	